

令和元年

9月28日(土) 29日(日)

都筑民家園

横浜市営地下鉄センター北駅徒歩10分

五節句のひとつ9月9日は重陽の節句です。この節句は菊の節句ともいい、今回は菊づくしの調度と「後の雛」にちなんだトーク、節句料理の試食で、秋の収穫と長寿を祝う「重陽の節句」を楽しみましょう。



秋の収穫と長寿を祝う重陽の節句

■9月28日(土)29日(日)

10:00~16:00 展示「菊づくしの調度品とちりめん細工、後の雛」

■9月29日(日)

11:00 ~13:00

●「重陽の節句・後の雛の話」と「節句料理のお話と試食会」参加の方

重陽の節句・後の雛の話 林 直輝氏 (日本人形文化研究所 所長)
節句料理のお話と試食会 冬野 慎治氏 (懐石冬野 主宰)

■参加費:1,500円

■定員:18名 要予約・先着順

■予約開始:8月12日 9:00~ 電話受付

■申込み先:都筑民家園 TEL045-594-1723

■ご予約の方の当日受付 10:45

14:00~14:50

林 直輝氏<ギャラリートーク>

※展示、ギャラリートークはどなたでも参加できます。



都筑区
25th



令和元年度 地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業
よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業
TSUZUKI ART&HISTORY

主催:よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業実行委員会

NPO法人都筑民家園管理運営委員会

共催:横浜市都筑区 横浜市歴史博物館

後援:都筑区ふるさとづくり委員会

協力:つるし雛の会



都筑民家園の「重陽の節句」

五節句と重陽の節句

五節句は江戸幕府により制定され庶民にも広がりしましたが、明治6年公式の祝日としての五節句は廃止されました。特に重陽の節句は、上巳の節句や端午の節句に比べ民間の行事としても認知度が低くなりましたが、近年は海外からの日本文化の注目により季節行事の五節句が見直されています。

都筑と菊

都筑は歴史の中でも重陽の節句で使う菊の栽培が盛んなところでした。川和地区の菊は全国的にも有名で、過去には皇室の方なども訪れました。都筑の菊文化を都筑民家園から再発信したいと思います。

後の雛(のちのひな)

重陽の節句は「後の雛」とも呼ばれ江戸時代には虫干しも兼ねて雛人形を飾りました。物を大切に長持ちさせる知恵と長寿の願いが融合した、楽しい「大人のひなまつり」です。

展示とギャラリートーク

林直輝(はやしなおてる)

日本人形文化研究所所長
一般社団法人日本人形玩具学会理事、日本風俗史学会理事
1979年 静岡県富士市生まれ
2002年 浅草橋の株式会社吉徳、吉徳資料室に学芸員勤務
2018年 株式会社吉徳 資料室室長 退社
2018年 日本人形文化研究所(富士市) 設立

人形研究者、浅草橋・吉徳資料室の小林すみ江さんの後任資料室長となり、後に日本人形文化研究所を設立。現在は日本各地で講演会、美術館・博物館の展覧会監修等の活動をされています。

今回は重陽の節句にまつわる節句飾り、日本独特のお雛様の「後の雛」の話をお聞きます。伝統的な年中行事の歴史を知り、現代人が忘れてきている四季折々の季節感を大切に生活してみたいかがでしょう。

特別展示品(林直輝氏所蔵品)

重陽の節句の「茱萸袋」(ぐみぶくろ)を描いた掛軸
端午の節句の「薬玉」(くすだま)を描いた掛軸
菊の有職造花(床飾り)
「菊慈童」(きくじどう)の人形



大木素十作・有職造花「菊に鶴」 丸平大木人形店製「重陽飾り」 中村信喬作「菊慈童」

その他の展示品

民家園から、菊づくしの調度品。鎌倉彫の手あぶり、菊柄の漆器、菊酒のお猪口など(個人所蔵品)、民家園のお雛さま。

つるし雛の会から、古布の縮緬を使った五節句のちりめん細工。

「節句料理のお話と試食会」

冬野慎治(ふゆのしんじ)

『懐石冬野』主宰

2018年懐石冬野(完全予約制)青山に開店。

冬野さんは仕出し料理とお店の二刀流で活躍しています。世界的に注目されている日本食文化の節句料理は四季をめながら日常生活に活かされています。重陽の節句では菊(長寿に効く薬花)の花びらを浮かべた菊酒を酌み交わしたり、庶民の間では収穫期の粟の節句としてお祝いしてきました。

秋の七草にちなんだ新作の節句料理もお楽しみください。



■問い合わせ 横浜市指定管理者
NPO 法人都筑民家園管理運営委員会
TEL 045-594-1723

〒224-0028 横浜市都筑区大柵西2 大塚・歳勝土遺跡公園内
(横浜市営地下鉄センター北駅徒歩10分)

■駐車場はありません。
路上駐車は近隣お迷惑になります。駅周辺の有料駐車場をご利用ください。